

抱っこひも等に関する国内事故事例の分析

抱っこひも等に関する事故は、大きく分けて「(子の) 転落」「窒息」「(親の) 転倒」等が報告されているが、本資料では「(子の) 転落」の事故を重点的にまとめている。

- 都の調査において、平成 21 年（SG 基準最終改定年 2009 年）以降に起きている、抱っこひも等からの転落に関する事故事例を 117 件把握した。そのうち、入院を要する重症事例は 27 件で、受傷部位は頭部が大半を占める。
- 転落事故の月齢は 12 か月未満が多く、特に入院を要する重症事例については、月齢 4 か月以下に集中している。
- 4 か月未満では、抱っこで前かがみなど無理な姿勢をした時や、ひもの緩みにより抱っこひもと保護者の身体との間に隙間が生じ、脇から子供がすり抜ける事故事例が多い傾向にある。
- 4 か月以上では、おんぶに関する事故事例が過半数を占め、着脱時に子供が動くことなどにより転落する事故事例が多い。次いで、抱っこで前かがみなど無理な姿勢をした時の事故事例が多くみられる。
- 転落時の高さは、入院を要する重症事例の 8 割が 90 cm 以上だった。

(1) 国内の抱っこひも等からの転落に関する重症事例¹

東京都が把握した、抱っこひも等からの転落に関する事故事例のうち、入院を要する重症事例 27 件は以下のとおり。抱っこひも等のうちスリングは、その他の抱っこひも・抱っこベルトとは構造が異なり、事故事例の分析を同時に行うことが困難なため、それぞれ分けて表にまとめた。調査対象は、SG 基準が最終改定された平成 21 年以降とする。

①日本小児科学会 傷害速報事例

	発生 年月	子供の 年齢・性別	事故（危害）の内容	
1	平成 25 年 3 月	0 歳 4 か 月 男児	危害 (救急搬 送、入院)	児を抱っこひもに對面で固定している状態で、券売機にて券を購入しようと 70 ～ 80cm 程度の高さの台にカバンを置いた。 <u>カバンから財布を出そうと少し前かがみになったときに抱っこひもの右脇から児が滑るように頭部を先進部にしてコンクリートの地面に転落してしまった。</u> 抱っこひものベルトはすべて閉めていた。普段は、ダウン着の上から装着していたが、その日はダウン着を着ていなかった。すぐに空港職員に声をかけて救急要請をしてもらい、近医へ搬送された。外傷性くも膜下出血を認めたために当院へ転院搬送された。生後 1 か月の頃から使用しており、今までも児がすり抜けそうとひやとしたことはあった。外傷性くも膜下出血。入院 5 日間。

出典) 日本小児科学会 Injury Alert (傷害速報)
<http://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/>

②東京消防庁救急搬送事例

(平成 21 年～平成 25 年に、抱っこひも等からの転落により東京消防庁管内で救急搬送された乳幼児のうち中等症以上の事故事例 12 件)

抱っこひも・抱っこベルト 11 件

	発生年	子供の 年齢	事故（危害）の内容	
1	平成 21 年	0 歳 (月 齢不明)	中等症	スーパーマーケットで買い物中、 <u>おんぶひもが切れて転落し、受傷したもの。</u>
2	平成 22 年	0 歳 (月 齢不明)	中等症	<u>おんぶひもを解き子供を下ろそうとしたところ、手がすべり子供を床面に墜落させてしまった</u>
3	平成 22 年	0 歳 1 か 月	中等症	1 か月の男児を約 1 m の高さから、 <u>父親が抱っこひもから落とし、救急要請したもの。</u>
4	平成 23 年	0 歳 1 か 月	中等症	祖母が、抱っこひもで孫を抱いていたが、 <u>抱っこひもの隙間から孫がフローリングの床に滑り落ち、頭部を打ったため、祖母が救急要請したもの。</u>

次ページへ

¹ 事例の収集期間は、データソース毎にそれぞれ異なる

5	平成 23 年	0 歳 2 か月	中等症	傷病者を抱っこひもで抱きかかえていたところ、 <u>ひもが解け</u> 母親の腰の高さから床（フローリング）へ転落したものの。
6	平成 23 年	0 歳 1 か月	中等症	店内で買い物中におんぶ抱っこひもで抱っこしていた 1 か月の長男が <u>おんぶ抱っこひも</u> からすり抜け店内フローア－上に墜落し <u>後頭部</u> を受傷したものの。
7	平成 23 年	0 歳 10 か月	中等症	母親が抱っこひもでおんぶした状態でマンションバルコニーで洗濯物を干していた際、10 か月の女兒は <u>抱っこひも</u> から <u>這い出て</u> しまい誤ってバルコニー地面に落下し <u>頭部</u> を受傷した。
8	平成 24 年	0 歳 2 か月	中等症	子供を抱っこひもに入れようとしたところ <u>抜け落ちて</u> そのままフローリングの床の上に落としてしまった。子供の右耳から出血があったため救急要請した。
9	平成 24 年	0 歳 3 か月	重症	13 時ごろに <u>抱っこひも</u> をつけようとした際に約 1 メートルの高さから落としてしまった。様子を見ていたが 19 時過ぎに <u>頭</u> にたんこぶが出来ていたため救急要請した。
10	平成 25 年	0 歳 11 か月	中等症	自宅で、母親が抱っこしていた長男を、 <u>おんぶに変えよう</u> と移動した際に、誤って約 1m の高さからフローリングに落としてしまい、 <u>後頭部</u> を打ってしまったものの。
11	平成 25 年	0 歳 6 か月	中等症	自宅で、母親が抱っこひもで <u>抱っこ中</u> に誤って床上に落としてしまい受傷したものの。

注) 重症とは、生命の危機が強いと認められたもの
 中等症とは、生命の危機はないが入院を要するもの
 出典) 東京消防庁救急搬送事例

スリング 1 件

1	平成 21 年	0 歳（月齢不明）	中等症	娘をスリングを使って抱っこしていたところ、 <u>スリングの止め具</u> が外れ娘が転落してしまった。 <u>後頭部</u> と臀部をぶつけたため要請した。
---	---------	-----------	-----	---

注) 中等症とは、生命の危機はないが入院を要するもの
 出典) 東京消防庁救急搬送事例

③国立成育医療研究センター受診事例

（平成 21 年 1 月～平成 26 年 5 月に、抱っこひも等からの転落により同センターを受診した乳幼児のうち要入院事例 13 件）

抱っこひも・抱っこベルト 9 件

	発生年月	子供の年齢・性別	事故（危害）の内容	
1	平成 22 年 4 月	0 歳 4 か月 女兒	骨折（入院）	母が抱っこひもを使って抱っこしていた。鍵をもとようと左手をリュックに回したら抱っこひもの中で寝ていた児が左脇から転落した。母の身長 152cm。転落 1m 位。すぐ泣いた、右頬に擦過傷、 <u>側頭部</u> に 6cm×6cm 位の血腫 （ウエストポーチのような形をしている部分を腰に装着し、児のお尻を乗せてひも部分を背中に渡して母の首にひっかける構造。）

次ページへ

2	平成 23 年 10 月	0 歳 1 か月 男児	骨折,脳 挫傷 (入院)	母・祖母とで、兄と兄を連れて買い物に行く途中での出来事。兄をベビーキャリアで母が前抱っこし、兄・母・祖母は歩きで出発。兄か兄が使えるように、ベビーカーも持ってでかけた。兄がベビーカーを押したが、走り出したりしたので、ベビーカーを支えたり、 <u>兄を取り押さえようと上体をかがめた際に、兄がベビーキャリアから転落した。</u> おちた瞬間は気づかず、落下した音で気がついた。鈍い音がした。どこから落ちたのか分からなかった。転落の高さは 1m 前後か。 (4.5kg 以下の乳児は腿を固定する「レッグストラップ」を留めなければいけないが、これを留めていなかった。)
3	平成 23 年 11 月	0 歳 7 か月 女児	骨折 (入院)	母が、夕飯の支度をする際、兄がぐずっていたのでおんぶして家事をしようと考えた。今までおんぶひもは、ずっと前抱っこで使用していたが、先日手順書を見ておんぶを試したところうまく出来たので“大丈夫できる”と思っていた。兄の腕をおんぶひもにセットして背中に背負うためにひもごと持ち上げて立位で母の右側より背負った。しかし、 <u>母の左肩に肩ひもがうまく掛からず四苦八苦しているうちに、兄が動き出した。</u> おんぶひもの左側より兄が転落しそうになったので母が腰をかがめたがそのまま頭よりフローリングへ転落。
4	平成 24 年 1 月	0 歳 1 か月 男児	骨折 (入院)	父母と兄で、父の車で外出。15 時過ぎに、洋品店の試着室で試着をおえ、通路に出たところあたりで、父が抱っこ帯を首にかけようともちあげたところ、 <u>兄が頭側にスライドしてすべりおちた。</u> 頭から真逆さまに落ち、床で頭部打撲した。転落の瞬間は母が至近距離で目撃。父母とも転落時の衝撃音(ガンという音)を聞いている。兄はすぐに激しく泣いた。父がすみやかに抱き上げて確認したところ、みるみる頭皮がふくらんできたのが分かったので、泣いている兄をなだめながら、父の車で成育の救急に来院。試着室をでたところで、床はビニールシートで覆われたフラットな固い床。試着室のならば通路での転落で、店員は通路にいたが母で死角になっていて見えていなかったと思う。「兄が転落した」ことの目撃は父母のみ。特に騒ぎになることはなかったので、商品をすぐに棚にもどして店を離れた。 (4 ウェイタイプのを、新生児用の横抱っこ専用シートを使用して横抱きで使用)
5	平成 24 年 3 月	0 歳 4 か月 男児	骨折,硬 膜外出 血 (入院)	ベビーベッドで寝かせていた。抱っこひもでおんぶしようとしたらおんぶひもから転落した。床はフローリング。高さは 60cm くらい。機嫌良い、哺乳良好。 <u>左側頭部腫脹あり</u>
6	平成 24 年 6 月	0 歳 4 か月 男児	骨折,打 撲傷 (入院)	母がおんぶひもで兄をおんぶしようとして、リビングのソファに兄を乗せて、抱っこひもを母のウエストに固定した。 <u>兄を仰向けに乗せた状態で、右肩のひもを肩にかけ、立ちあがったところ、左横から兄が転落した。</u> 兄が仰向けに落ちた (90cm) ように見えたが、何処を打ったかは分からない。床はフローリングにカーペット。鈍い音がした。意識消失なし。 <u>頭頂部右後方に 3cm 大の血腫あり。</u> 意識清明。

7	平成 25 年 10 月	0 歳 1 か月 女児	骨折,頭蓋内損傷 (入院)	ベランダで母が立抱き用抱っこひもで抱っこしていて、大泣き。 <u>抱っこひもが外れ転落。約 110cm。</u> コンクリート。すぐに泣いてその後寝た。叩いて刺激しただけで起きている。嘔吐なし。 <u>右頭頂骨骨折。</u> 来院時不機嫌以外に明らかな異常所見を認めなかった。
8	平成 26 年 2 月	0 歳 1 か月 男児	前頭骨骨折 (入院)	抱っこひも調節中、 <u>児がフローリングへ墜落。</u> 母身長 162 c m 本日は、 <u>抱っこひものまま授乳。</u> 授乳後、抱っこひもがゆるんでいたため、立ち上がって調整を行おうとして母の右手側の抱っこひもを支える留め具を一旦外して差し込もうとした際、 <u>児が抱っこひもの横からすり抜けて墜落した。</u>
9	平成 26 年 2 月	0 歳 3 か月 女児	骨折 (入院)	雪が降って天候は悪かったが予定通り 4 か月検診へ出かけた。場所は区役所出張所。非常に混んでいるとの噂は聞いていたが、噂通り会場はとても混んでいた。ベビーベッドも 1 つくらいあるがそこではすでにオムツを替えている人などもいて、赤ちゃんを下ろす場所がどこにもなかった。待合いのソファの上にとりあえず児を下ろそうと思い、荷物を先においてその次に児を下ろそうとした。今ひとつ記憶にないが、荷物を下ろすより先に抱っこひもの左の固定具を外していたようで、母の左側、固定具の隙間から滑り落ちるように転落した。たぶん頭からおちたように思う。母のコートも一緒に脱げて落ちてその上に落ちていて、直接床に落ちたのではない。特に落ちたときの音はしなかったように思う。受傷は 13:00 頃。すぐく混み合っていて、落ちたところをみんな見ていて周囲はどん引きしていた。児は落ちた後にわっと泣いたが、すぐに抱き上げてあやすとニコニコ笑っていた。顔色不良無し。意識変容無し。そのまま検診を受診、診察の小児科医に会場内で転落して頭を打ったことを話し、左右の瞳孔をみたりや頭の触診などもしてくれた。その時には特に異常はなかったが「吐いたり元気が無ければ救急受診するように」と説明された。その後、帰宅した時点で異常はなく、児もニコニコしていた。帰宅後、しばらくして頭が大きく膨れてきたことに気づいた。

出典) 国立成育医療研究センター

スリング 4 件

1	平成 23 年 3 月	0 歳 1 か月 女児	骨折 (入院)	母が児をスリングで抱っこしていて、片膝を着いた状態で片方の手でベビーカーをたたもうとしたところ。 <u>児が滑り落ちるように転落した (高さ 50cm 位)</u> マンションの共用スペースでの事故。下はコンクリート。児は臀部から落ち、弾みで後頭部を打撲した。すぐに啼泣 痙攣なし 嘔吐なし。右頭頂部に頭血腫あり。到着時顔色不良あり
2	平成 24 年 4 月	0 歳 2 か月 女児	打撲傷,右耳出血 (入院)	自宅にて朝の支度をしていた。児がぐずったが世話をする時間がないためスリングに入れてあやそうと、児を急いでスリングに入れようとした。が、 <u>袋状になっているところに納まらず、スリングと母の隙間から転落した。</u> 右側頭部を下に床に滑り落ちた。高さ 1m 位。床はフローリング。すぐに泣いた。嘔吐なし。意識消失なし。そのほか呼吸困難などなし。すぐ救急車を要請。右耳の中から出血あり。(肩掛け式の一体構造のスリング。米国製。)

3	平成 25 年 12 月	0 歳 1 か月 女児	頭蓋内 損傷 (入院)	母が 3 階マンションから児をつれて外出した。スリングを使用して児を抱いていたが、階段を降りている際に少しずつずれて、おしりの支えが浅くなってしまった。外のアスファルトの上で立位のまま、おしりをスリングを深く入れようとした際におしりが滑ってしまった。足から着地し、尻餅をつき、後ろに倒れて後頭部をぶつけた。外傷性クモ膜下出血。
4	平成 25 年 12 月	0 歳 1 か月 女児	骨折 (入院)	母が自宅で児を抱っこからスリングに入れようとしたところ、児の足がひっかかりうまく入らず、母の前方向に頭より転落した。転落後は啼泣あり、意識障害、嘔吐はなかったが、母からみて反応が乏しかったように思われた。目撃者は母のみ。父は同室にいたが後ろ向きであった。床はフローリング。頭部：左頭頂部に 5cm 程度の波動を触れる血腫あり。

④全国消費生活情報ネットワーク・システム（PIO-NET） 事故情報データ

PIO-NET において、抱っこひも等に関する危害・危険情報を都が独自に集計したところ、平成 21 年 4 月以降受付、平成 26 年 9 月 30 日まで登録分の相談のうち、抱っこひも等からの転落に関する入院事例は 1 件だった。

	発生 年月	子供の 年齢・性別	事故（危害）の内容	
1	平成 26 年 6 月	0 歳 2 か月 女児	頭蓋骨骨折、硬膜外血腫 (入院)	生後 2 か月の乳児を抱っこひもに入れてスーパーへ買い物に行き、3 歳になる長男をショッピングカートに載せようと自分の右側から持ちあげた途端抱っこひもの横の左側隙間から頭から落ちた。病院では頭蓋骨骨折及び硬膜外血腫と診断された。入院時に見られた血腫が 24 時間後吸収されてきたのを CT で確認し、48 時間後退院した。店舗で購入した際販売員と相談して実際に抱っこひもに乳児を入れて試してみたが、このようなことは予想もしなかったし、販売員からも使用上の注意は受けていない。

出典) PIO-NET

(2) 国内の抱っこひも等からの転落事故の状況

東京都が把握した抱っこひも等からの転落に事故事例は、入院に至らないものも含め、下記の 117 件であった。

表 1 把握事例件数（カッコ内は要入院の件数）

日本小児科学会 Injury Alert	1 (1)
東京消防庁救急搬送事例	62 (12)
国立成育医療研究センター受診事例	52 (13)
PIO-NET	2 (1)
合計	117 (27)

このうち、スリングによる事故事例 9 件を除いた 108 件の事故事例を分析した結果は下記のとおりであった。

表 2 月齢別発生件数（カッコ内は要入院の件数）

0 か月	1 か月	2 か月	3 か月	4 か月	5 か月	6 か月	7 か月	8 か月	9 か月	10 か月	11 か月	12 か月以上	不明	計
3 (0)	15 (6)	12 (4)	7 (1)	12 (5)	8 (0)	7 (1)	10 (1)	9 (0)	5 (0)	3 (1)	2 (1)	5 (0)	10 (2)	108 (22)

表 3 全月齢の転落時の状況（カッコ内は要入院事例）

	おんぶ	抱っこ	変更時	合計
着	29 (3)	15 (3)	4 (1)	48 (7)
脱	2 (1)	5 (1)	—	7 (2)
使用中	7 (2)	39 (9)	—	46(11)
不明	1 (0)	6 (2)	—	7(2)
合計	39 (6)	65 (15)	4 (1)	108(22)

さらに、月齢不明の 10 件を除いた 98 件の事故事例を、転落時の状況と、そのうち様々な状況に分類される抱っこ使用中の内訳について、4 か月未満と 4 か月以上でそれぞれ分析した結果は下記の通りであった。

表 4 4 か月未満の転落の状況（カッコ内は要入院事例）

	おんぶ	抱っこ	変更時	合計
着	2 (0)	8 (3)	0 (0)	10 (3)
脱	0 (0)	2 (0)	—	2 (0)
使用中	1 (0)	<u>20 (7)</u>	—	21(7)
不明	0 (0)	4 (1)	—	4(1)
合計	3 (0)	34 (11)	0 (0)	37(11)

表 5 4 か月未満抱っこ使用中の 20 事例の内訳（カッコ内は要入院事例）

無理な姿勢	8 (2)	前かがみ 5 (1)、上の子を抱き上げようとした 1 (1)、親がつまづいた 1、中腰 1
緩み	7 (4)	ひものはずれ 4 (2)、すり抜け 3 (2)
留め具の調整中	1 (1)	立ち上がって調整を行おうとした時
装具がはずれた	1 (0)	ホックがはずれた
子供の動き	1 (0)	子供が蹴った
不明	2 (0)	不明
合計	20 (7)	

※前かがみのうち 3 件はインサートごと転落

表 6 4 か月以上の転落の状況（カッコ内は要入院事例）

	おんぶ	抱っこ	変更時	合計
着	22 (3)	6 (0)	4 (1)	32 (4)
脱	1 (0)	3 (1)	—	4 (1)
使用中	5 (1)	<u>17 (2)</u>	—	22 (3)
不明	1 (0)	2 (1)	—	3 (1)
合計	29 (4)	28 (4)	4 (1)	61 (9)

表7 4か月以上抱っこ使用中の17事例の内訳（カッコ内は要入院事例）

無理な姿勢	7 (2)	前かがみ 3 (1)、片手を背中へのリュックに回した 1 (1)、洗濯取り込み 2、しゃがんだ 1
不適切な装着	4 (0)	バックル、ウェストベルトをしていなかった
緩み	4 (0)	すり抜け、ひものはずれ、歩行中
留め具の調整中	1 (0)	片方がはずれたため直そうとした時
装具がはずれた	1 (0)	バンドがはずれた
合計	17 (2)	

また、転落時の高さが明らかなデータについて分析したところ、下記の通りであった。

表8 高さ別発生件数（カッコ内は要入院事例）

50cm 未満	50cm～	70cm～	90cm～	110cm～	合計
2 (0)	5 (2)	7 (0)	24(8)	13(3)	51 (13)

以上の分析結果から、スリングを除く抱っこひも等からの転落事故について次の傾向が明らかとなった。

転落事故は12か月以上の子供にも起きているものの、多くは12か月未満の子供で起きており、特に入院に至る重症事例22件中16件は4か月以下の低月齢児に集中している（表2、表3）。

4か月未満の子供は、首が据わっていない場合、おんぶの適用月齢でないことから、抱っこでの件数が多く、その内訳は、前かがみなどの無理な姿勢をした時や、ひもの緩みが原因で脇から子供がすり抜けたり、肩ひもがはずれたりするものが多い（表4、表5）。

4か月以上の子供では、おんぶをする時の件数が多く、子供が動いたり暴れたりした事例がみられた。次いで抱っこでの件数が多く、その内訳は、前かがみ等の無理な姿勢をした時や、ひもの緩みによる脇からの子供のすり抜けや肩ひものはずれとなっている。また、バックル、ウェストベルトをしていないなど、不適切な装着による事例もみられる（表6、表7）。

転落時の高さの分析では、90cm以上の高さからの件数が7割以上であり、入院事例の件数でみた場合、8割以上が90cm以上だった。保護者が立った姿勢で転落事故が起きていると推察され、高い位置からの転落が重症事例になっている（表8）。

分析から除いたスリングの事故事例は9件と少ないが、9件中5件が入院を伴う重症事例であり、1、2か月の低月齢児に集中している。

本協議会では、抱っこひも等からの転落事故に焦点を当てて議論しているが、スリングについては、窒息の事故事例も報告されている。

【参考：スリングでの窒息の事故事例】

	発生 年月	子供の 年齢・性別	事故（危害）の内容	
1	平成 21 年 10 月	0 歳 2 か月 女児	死亡	家族で遊びに行き、帰りの電車内で母親にスリングで抱っこされていた。スリングは、顔を含めて全身を包み込むように使用していた。16 時 20 分頃、スリング内で児が入眠しているのを母親が確認した。16 時 45 分に電車を降りた。16 時 50 分頃、体動がなくなり、母親は児が寝たと認識した（呼吸の有無は確認しなかった）。17 時過ぎ、帰宅しスリングから児を降ろしたところ、ぐったりしており呼吸をしていなかった。

注）SIDS（乳幼児突然死症候群）の可能性もあり

出典）日本小児科学会 Injury Alert（傷害速報）

<http://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/>